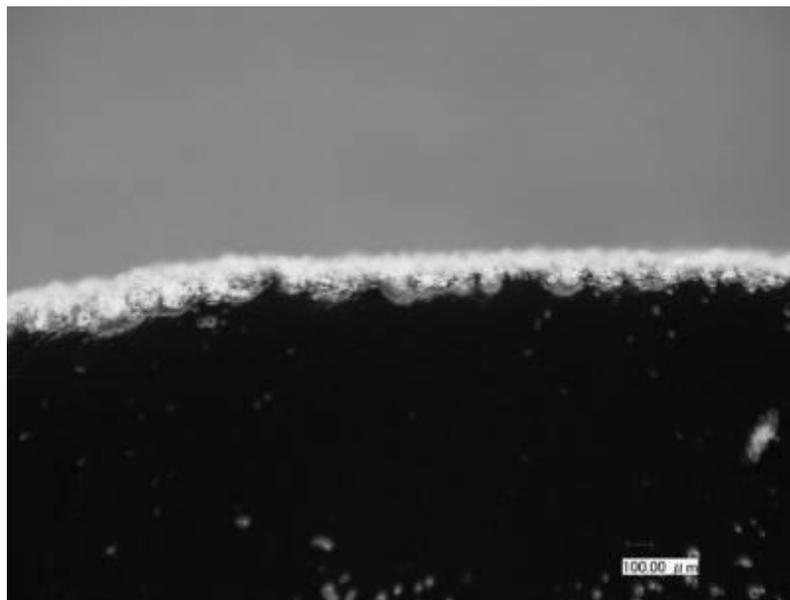


## ケミカル

## 両面テープなどに塗布できるホコリが付きにくい粘弾性体

発明の名称	粘弾性体およびその製造方法		
出願人/権利人	アンビック株式会社	発明者	岩城 史典、井上 知樹、濱田 正芳
出願日	平成31年3月26日	出願番号	2019-058322
公開番号	2020-157565	特許番号	—
法的状態	出願中		

## 代表図



粘弾性体の切断面を光学顕微鏡で観察したもの

## 発明の概要

表面にホコリが付着しにくく、様々な両面テープや接着剤を塗布できる表面を有する粘弾性体

## 特徴

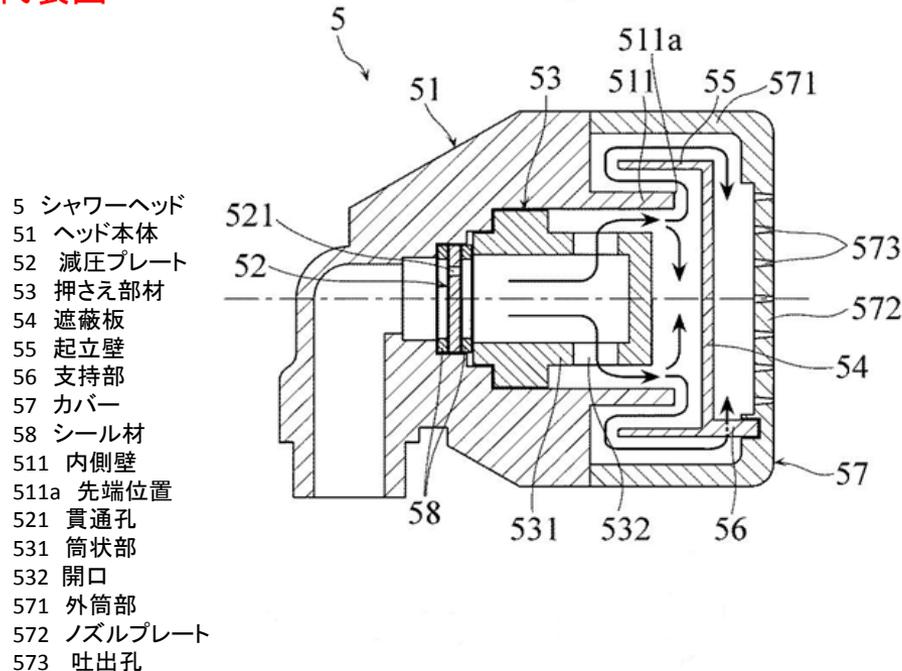
発泡層は粘弾性体に喰い込むように付着し、発泡層と粘弾性体の界面が平面ではなく凹凸形状をしている。そのため、発泡層と粘弾性体との接触面積が大きくなり、発泡層を構成する発泡体の粉落ちをなくすことができ、伸び縮みさせた際のシワ等の発生を防止できる。また、発泡層は粘着性を持たず、表面張力が高いため、ホコリ等が付着しても払い落とすことができ、使用できる接着材や両面テープの制限をなくせる。様々な両面テープや接着剤を塗布できる表面を有するため、制振材、防振材、防音材、遮熱材、電磁波シールド材、緩衝材、衝撃吸収材等に使用できる。

関連分野

電子部品・素子、建設・土木、医療・保健衛生

発明の名称	シャワーヘッド		
出願人/権利人	ケーピーエス工業株式会社	発明者	只熊 睦、中西 淳治
出願日	平成31年4月4日	出願番号	2019-071783
公開番号	2020-168219	特許番号	—
法的状態	出願中		

## 代表図



## 発明の概要

微細気泡の減少を抑制するのに適したシャワーヘッド

## 特徴

液体中に気体が高圧溶解された気液溶解流体から微細気泡を発生させ、微細気泡を含む微細気泡含有液を吐出させるシャワーヘッドである。気液溶解流体が通過する貫通孔を有し、貫通孔を通過する気液溶解流体が圧力開放することで微細気泡を発生させる減圧プレートを有している。微細気泡発生装置において混合する気体の種類は空気限定されない。たとえば炭酸ガス(二酸化炭素)、酸素、窒素やオゾンといったガスを微細気泡発生装置において取り込んで、微細気泡含有液を生成してもよく、様々な用途におけるシャワーヘッドとして利用することが可能である。

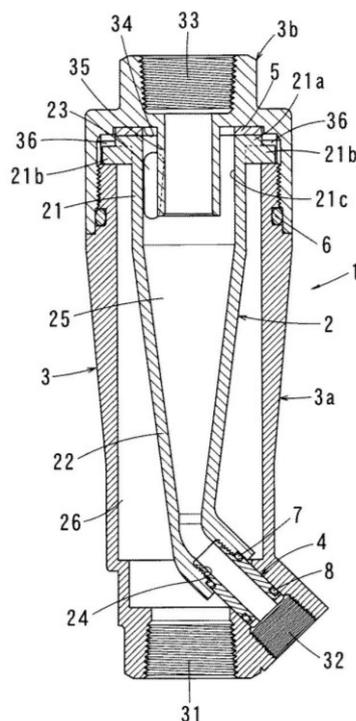
## 業務用機械

## フィルタを用いず遠心力で分離する異物分離除去装置

発明の名称	異物分離除去装置		
出願人/権利人	ヤマホ工業株式会社、株式会社グローイング	発明者	今川 良成、渡辺 秀一
出願日	平成31年4月19日	出願番号	2019-080129
公開番号	2020-175341	特許番号	—
法的状態	出願中		

## 代表図

- 1 異物分離除去装置
- 2 サイクロン筒体
- 3 外筒
- 3a 本体部
- 3b キャップ
- 4 ニップル
- 5 パッキング
- 6~8 Oリング
- 21 円筒状部
- 21a フランジ
- 21b 係止突起
- 21c 内周面
- 22 漏斗状部
- 23 入口
- 24 管継手接続口
- 25 サイクロン分離室
- 26 環状通路
- 31 導入口
- 32 異物流出口
- 33 出口
- 34 天井面
- 35 流出管
- 36 係止溝



## 発明の概要

液体に混入した異物を、遠心力で分離して除去するサイクロン方式の異物分離除去装置

## 特徴

サイクロン筒体を外筒の内部に挿入し、サイクロン筒体と外筒の内周面との間に、外筒の下端中心に設けた導入口から流入した未処理液体をサイクロン分離室の入口に誘導する環状通路を形成している。これにより、装置の設置スペースの増加が回避され、未処理液体の供給管を接続する導入口を装置の下部の1箇所に集約してサイクロン分離室に複数の入口を設けられる。そのため、異物分離除去システムの構成は複雑にならず、サイクロン分離室に複数の入口を設ける場合のコストアップや異物分離除去システムの設置スペースの増加の問題も解消される。

関連分野

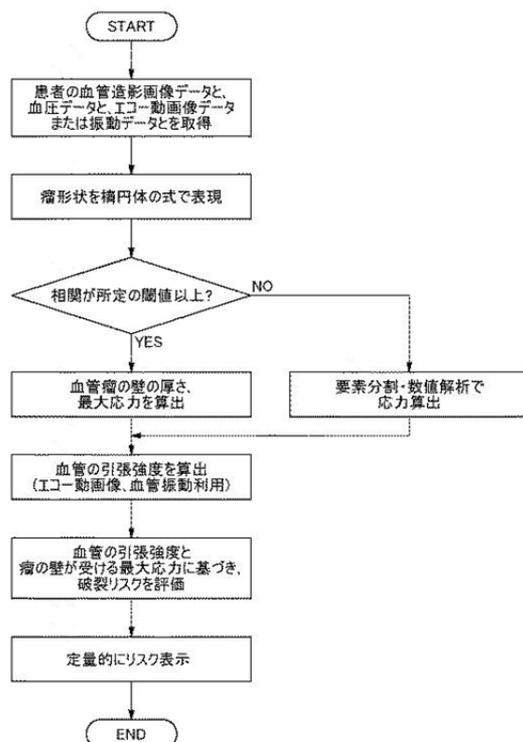
電気機械、その他製造、廃棄物処理

## 業務用機械

## 患者の負担少なく血管瘤の破裂リスクを評価できる装置

発明の名称	血管瘤の破裂リスク評価方法、評価装置およびプログラム		
出願人/権利人	有限会社ライブエイド、野方文雄	発明者	野方 文雄、中田 修
出願日	平成31年4月5日	出願番号	2019-072537
公開番号	2020-168262	特許番号	6774520
法的状態	登録中		

## 代表図



## 発明の概要

医用画像に基づいて血管瘤の破裂リスクを定量的に評価する装置

## 特徴

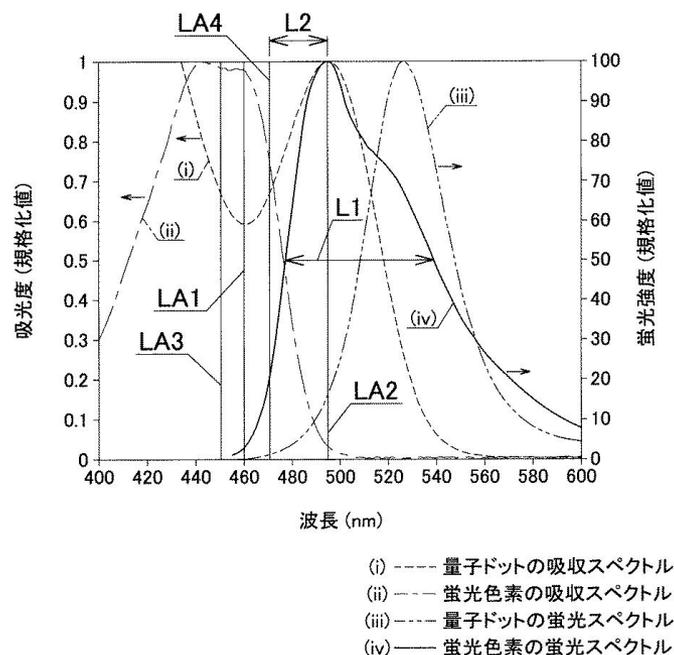
患者の心拍による血管壁振動のデータを取得するステップと、血管壁振動の周波数と血管の強度との相関関係を記憶したデータベースを参照して、患者の血管の強度を求めるステップを備えている。この構成により、患者への負担を少なく血管の強度を求め、血管瘤の破裂リスクを評価できる。出力するステップでは、リスクの評価と共に血管瘤の形状を表した楕円体を表示できる。この構成により、血管瘤の破裂リスクについて患者に分かりやすく説明できる。血管瘤の破裂リスクを定量的に評価でき、血管瘤の診断を支援する方法およびシステムとして有用である。

関連分野

電気機械、放送・通信、専門技術サービス、医療・保険衛生

発明の名称	量子ドット分散体及び量子ドット分散体を含む塗膜形成用組成物		
出願人/権利人	山陽色素株式会社	発明者	本玉 直哉
出願日	平成31年3月29日	出願番号	2019-066996
公開番号	2020-166131	特許番号	—
法的状態	出願中		

## 代表図



量子ドットと蛍光色素の吸収及び蛍光スペクトル

## 発明の概要

量子ドット分散体及び量子ドット分散体を含む塗膜形成用組成物

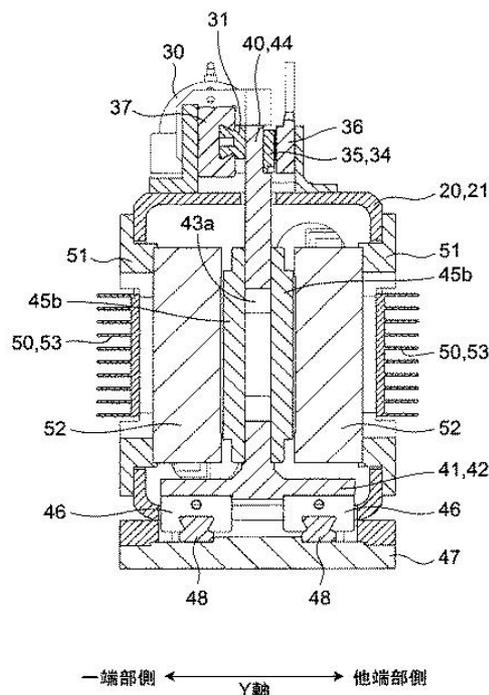
## 特徴

塗膜形成用組成物は、量子ドット分散体及び塗膜形成成分並びに必要なに応じて用いる任意成分を混合して攪拌し、均一に分散させることで得られる。例えば、フォトソグラフィ用の塗膜形成用組成物の場合は、量子ドット分散体、塗膜形成成分及びアルカリ可溶性樹脂並びに必要なに応じて用いる任意成分を混合して攪拌し、均一に分散させることで得られる。また、インクジェット用の塗膜形成用組成物の場合は、アルカリ可溶性樹脂を除き、フォトソグラフィ用の組成物と同様の成分を用いることで得られる。塗膜形成用組成物は、各種用途の塗膜の形成に好適に用いられる。

発明の名称	リニアアクチュエータ及びこれを用いたタフティングマシン		
出願人/権利人	道下鉄工株式会社	発明者	道下 健二
出願日	平成31年4月8日	出願番号	2019-073562
公開番号	2020-174422	特許番号	6664779
法的状態	登録中		

## 代表図

- 20 ケーシング
- 21 ケーシング本体
- 30 ロータリーエンコーダ
- 31 カップリング部材
- 34 リニアエンコーダ
- 35 スケールベース
- 36 検出ヘッド
- 37 ガイドレール
- 40 マグネットユニット
- 41 マグネット取付板
- 42 水平基板
- 43a 垂直基板
- 44 突出部
- 45b マグネット
- 46 スライドブロック
- 47 スライドベース
- 48 ガイドレール
- 50 コイルユニット
- 51 コイル取付板
- 52 コイルユニット本体
- 53 冷却フィン



## 発明の概要

高精度かつ高速の往復移動機構を必要とするリニアアクチュエータ

## 特徴

タフティングマシンは、ニードルバーを軸心方向に往復移動させるための駆動源とした構成である。本発明によれば、リニアアクチュエータのマグネット取付板を磁力で、高精度かつ高速で往復移動できる。このため、生産性の高いタフティングマシンが得られる。また、耐久性の低いボールネジを使用しないので、ボールネジの劣化による交換を必要とせず、メンテナンス期間が長くなり、メンテナンスに手間のかからないタフティングマシンが得られる。本実施形態によれば、高い生産性で複雑な模様を有するカーペットを生産できるタフティングマシンが得られるという効果がある。

## 飲食

## 麦類緑葉搾汁残渣乾燥粉碎末の飲食品組成物

発明の名称	麦類緑葉搾汁残渣乾燥粉碎末の飲食品組成物及びその製造方法		
出願人/権利人	日本薬品開発株式会社	発明者	三垣 貴正、帆足 和憲、永尾 純三、門脇 靖司
出願日	平成31年4月19日	出願番号	2019-079782
公開番号	2020-174590	特許番号	6579536
法的状態	登録中		

## 代表図(図面なし)

## 【請求項1】

麦類緑葉搾汁残渣の乾燥粉碎末を主原料として含有することを特徴とする飲食品組成物(但し、該乾燥粉碎末の補助成分としての使用を除く)。

## 発明の概要

麦類緑葉搾汁残渣乾燥粉碎末の飲食品組成物及びその製造方法

## 特徴

これまで産業廃棄物として捨てられていた麦類緑葉搾汁残渣を新たに飲食品組成物の原料として利用できる。また、麦類若葉搾汁乾燥粉末では難しかったお湯での分散性が改善された飲食品組成物を提供できる。麦類緑葉搾汁残渣乾燥粉碎末は、食物繊維が多く含まれるという利点がある。麦類緑葉搾汁残渣乾燥粉碎末をそのまま飲食品として提供できるが、必要に応じて、その剤型を粉末、顆粒、ペレット、錠剤、カプセル剤、油状、ゲル状、液状にできる。本発明の麦類緑葉搾汁残渣乾燥粉碎末は、青汁用の食品、栄養補助食品、健康食品等に好適に用いられる。

関連分野

医薬、ケミカル